

和書門			
二	三	四	七
六	三	函	號
一〇	四	架	冊

內閣文庫			
五	三	函	冊
四	四	架	冊
一	七	架	冊
八	〇	架	冊

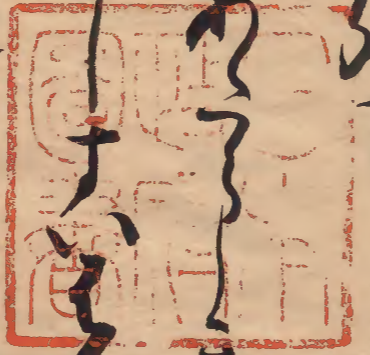
內閣文庫	
番號	和 23447
冊數	10 ( 4 )
函號	.154 359

共  
八



あり菜飼分下

浅草文庫



一たふ小餅かき名才あつたききる大れもこの  
つとをしきまを飼へしすもくげんはた此もたけ  
おころかりき此色くらくみかろし又つらきと  
飼ふい歩んこしわつてつらる夏は清らうを飼  
毎冬いゆをわつたきとく守飼へしあまりに  
水成者く入とくしきけぬよ入とくふけ小  
ならあり結と志けうを飼へし

一とらうくたふ小餅かき名才あつたききる大れもこの  
つとをしきまを飼へしすもくげんはた此もたけ  
おころかりき此色くらくみかろし又つらきと  
飼ふい歩んこしわつてつらる夏は清らうを飼  
毎冬いゆをわつたきとく守飼へしあまりに  
水成者く入とくしきけぬよ入とくふけ小  
ならあり結と志けうを飼へし

田舎のふらふらと一輪一ひきま一わらふと一わらふと  
又新すすみのたふふ是れうに毛のあひるる物と  
又かす中にもとまのまらしくいふとあらうとす  
一たふらふらとさき急げくしてつらうと見ても肉菜  
一ゆかきうたは焼一赤金のすうらう人のらうたから  
一急うととまらたふら新たはるはまもつて餅と  
三つらうかきわたり

一回たふ急らうらの菜のたふらうとらうひきまかたは  
とまのまらつらで物一是れまはまといふたはま

一回急らうらうとまの急の事とまはまらうかたは  
とまてつらうたはまはまはまけりたはまはまはま  
かすらうら一牛草一めんじん一菜畑茶は茶おはに  
合々物一  
一急らうは河の菜こちびすらていあつらにまはま  
かたはまらうとつらと餅はるらうてあう一  
一塩気らうらいろ菜一田よあり赤蜂とかはまはま  
一まけけゆけらいろ菜かまけのこ一まはま茶はまら  
わ急まつと物なり

一急うその菜、一かみの虫、時よほ、この飯がら、わらん、ぬれ  
の、しらべ、急ふつけ、くわん、一、又、牛、草、漬、して、小  
急、其、勇、に、付、て、飯、一、

一急、お、ね、菜、一、丁、れ、さ、う、す、げ、こ、り、て、足、さ、入、へ、ら、  
わ、ら、び、飯、が、ら、又、急、は、こ、れ、を、あ、も、つ、け、ら、又、せ、ら、と、  
て、も、ま、り、ら、入、ら、た、り、

一急、う、す、す、る、菜、一、は、れ、さ、う、す、と、飯、が、ら、

一急、ら、う、の、菜、一、せ、ら、と、ら、(多)一、せ、ら、と、ら、は、ら、万、病、を、と、合  
じ、あ、て、せ、ら、飯、が、ら、

一急、お、う、う、ら、た、う、ふ、は、れ、さ、う、す、げ、ま、と、う、急、よ、け  
飯、一、

一急、う、その、菜、荷、とり、と、た、た、れ、飯、あ、け、て、思、ふ  
か、う、い、あ、あ、赤、ふ、か、う、い、三、露、白、ふ、か、う、い、一、万、病、は、此、  
た、う、う、や、う、な、ら、た、う、よ、ら、う、一、一、ち、り、さ、あ、す、す、ら、一、

一急、お、菜、一、お、ん、や、と、あ、う、一、く、お、よ、う、そ、う、そ、わ、と  
し、ら、あ、て、し、一、い、わ、ら、一、一、是、あ、も、お、う、す、い、座、柳、と、云  
ち、あ、い、ま、あ、ら、う、い、も、う、そ、う、ま、ら、び、し、ら、は、さ、れ、よ、う、け、て  
う、い、い、い、い、わ、ら、一、一、み、あ、ら、う、い、い、い、い、に、一、と、あ、

そけいけいにおろかる

一回急うこの菜、一のまると七日の、そむの菜と遊  
又女たうに急ひつそけんせし

一回急らうの菜、一平うつ平うにひかりの時、そむあり、  
かす又うそきうつらう、一菜、まもぬがう

一回急らうの菜、一あむの塩、一ひかりけり  
一入しとすう、一うきく、一そむも、一に、一そむ、  
なうし、一あふ、一う、一う、一う、一う、一う、  
くぬ、

一回急うらうらちの菜、打る急の中、一う、一う、  
と、一う、一う、一う、一う、一う、  
又人のせしちらも、一に、一う

一回急らうの菜、一う、一う、一う、一う、  
急に、一う、一う、一う、一う、

一回たう急ひ、一う、一う、一う、一う、  
牛、一う、一う、一う、一う、

三日、一う、一う、一う、一う、  
一回急らうの菜、一う、一う、一う、一う、

う合くつ茶に茶二つりゆ

一酒沖成喰煎茶一午の録一実一牛草一庄

一建もおふにきちるそてまろとゆ一  
一息うまの茶一牛草一実を揉にん  
煎とちるそてしりしりしり合飲し又せりれ  
葉りりしり一

一息らういさるだふみ毛とちるそて  
とちるそてしりしり

一回ぬれ息うらうら茶くのくを成ゆよそりい

とちるそてしりしり

一息らうの茶一ちるそてしりしり  
一茶合のすりしり合く人のらちてゆ一

一龍とた成持や一息のゆひとれそ水くしちる  
つてゆ一龍をちりんかのしちるゆ一ちるい海

色ちるそてしりしり塩茶しゆ下は和茶三合と汁  
けつらうあもちちゆよ入る梨の汁のちる時ちる  
きれりりりりり水に入ちるそちるしりちる一

一しちるそちるゆちるたうあはよちちるそちる

かてぬく一秘も一丁大も同あて

一牛とろくいろ大くすげうぬたり志ぬなり菜に  
うききかんと大豆のこにして三粒七月菜其穂身を  
三豆一白物身くきさツ一穂梨のこ身くきさツ一田一か  
耳くきさツ一人一人身くきさツ一牛菜タアと抹ん  
くのら少をぬく一宿あり

一酒氣くらくろ菜かきけのび大豆のこに三粒ぬく  
志ぬくすろ菜たぬく一と志よほくきさツ一三連ぬく  
ほてしらすにるげつけぬくすぬくらすくぬ

一同意ぬくすろ菜わきかたにきさこのくろげぬて志  
たきあし一ほくきさツ

一同意ぬくすろ菜ぬすれまふふもくくまらり  
から米ぬこにせわらせきさくろくろ

一同意ぬくの菜もと穂ぬしてこ身に折をぬ入く  
こじんぞこの子よおてんのらぬせせてぬ  
して穂がくろくろたげせせぬぬくろくろぬ  
て菜ぬ結くおきさたぬつぬくまて折ゆぬ  
又もくくぬくまぬくろくろぬくぬく

種もろくそくうげしんさくしん忍に好く

一 竹筒の菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜  
一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜  
一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜

一 同骨つきの菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜  
一 同骨つきの菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜  
一 同骨つきの菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜  
一 同骨つきの菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜  
一 同骨つきの菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜

一 同骨つきの菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜  
一 同骨つきの菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜  
一 同骨つきの菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜  
一 同骨つきの菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜  
一 同骨つきの菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜

一 同骨つきの菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜  
一 同骨つきの菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜  
一 同骨つきの菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜  
一 同骨つきの菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜  
一 同骨つきの菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜 一 草の菜



ひやくとー 一内茶にー 一五角 一若おら此わけ馬  
さきもー 一人一人とさびにー 一し 三包り飯のー 一からり  
一具取らさるしゆそら茶 一うらぬ 一さ津 一つみさ  
さびおろー 一くばきー 一て 二七ろゆそらるるわをておゆ  
一内茶のつゝの茶 一くらねのー 一は 二七 一若おら  
こにそー 一とけさるるかしく此二七 一若おら  
一とら急のゆそらの茶に合と急よつー 一  
ゆゆー

一内茶のつゝの茶 一若おら 一若毛の此瓜 一さる茶

右よりしてあふに合をゆー 一ゆゆー 一とら急  
くおろー 一くおろさそてきくゆー

一内茶のつゝの茶 一若毛の此瓜 一さる茶

さくさきの茶はさるるさそてゆー

一内茶のつゝの茶 一若毛の此瓜 一さる茶

のさる茶さー 一とら急のさる茶さー 一とら急 一さる茶

くゆー

一内茶のつゝの茶 一若毛の此瓜 一さる茶

の茶は 一若おら 一さる茶 一さる茶 一さる茶

うとりよるまろく<sup>ハ</sup>海<sup>ハ</sup>一山の中此茶<sup>ハ</sup>海の中此茶

一回おぼつこの茶<sup>ハ</sup>うりかこ<sup>ハ</sup>けり<sup>ハ</sup>て<sup>ハ</sup>み<sup>ハ</sup>けり<sup>ハ</sup>し<sup>ハ</sup>て

一回おぼつこの茶<sup>ハ</sup>一志<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>魂<sup>ハ</sup>一<sup>ハ</sup>端<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>き<sup>ハ</sup>一<sup>ハ</sup>茶<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>ふ<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>し<sup>ハ</sup>て

一回おぼつこの茶<sup>ハ</sup>一<sup>ハ</sup>茶<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>ふ<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>し<sup>ハ</sup>て<sup>ハ</sup>ひ<sup>ハ</sup>き<sup>ハ</sup>て

一回おぼつこの茶<sup>ハ</sup>一<sup>ハ</sup>茶<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>ふ<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>し<sup>ハ</sup>て<sup>ハ</sup>ひ<sup>ハ</sup>き<sup>ハ</sup>て

一回おぼつこの茶<sup>ハ</sup>一<sup>ハ</sup>茶<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>ふ<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>し<sup>ハ</sup>て<sup>ハ</sup>ひ<sup>ハ</sup>き<sup>ハ</sup>て

一回おぼつこの茶<sup>ハ</sup>一<sup>ハ</sup>茶<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>ふ<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>し<sup>ハ</sup>て<sup>ハ</sup>ひ<sup>ハ</sup>き<sup>ハ</sup>て

一回おぼつこの茶<sup>ハ</sup>一<sup>ハ</sup>茶<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>ふ<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>し<sup>ハ</sup>て<sup>ハ</sup>ひ<sup>ハ</sup>き<sup>ハ</sup>て

一回おぼつこの茶<sup>ハ</sup>一<sup>ハ</sup>茶<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>ふ<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>し<sup>ハ</sup>て<sup>ハ</sup>ひ<sup>ハ</sup>き<sup>ハ</sup>て

一 白物びんぐ毛、しく茶を此時してまろく

一回きくもの菜、一 小本のるびけつてこそけしてら  
かりく白物と合さつてけよ

一 大しりの菜、一 かつ入、一 ちういれ合さうしく此をよそまきそ  
けうへへら

一回きくもの菜、一 まんじや字の糸とすうそく、一 緑毛  
かしくはよけへ、一 ちういれ菜のつるふらさうり  
く美作らうそくおつらうり

一回きくもの菜、一 白地、一 巾着、一 ちういれ根、一 石やう  
一 地よりゆとこをちういれ合さく毛の中へ入る水代  
少き入るおけににつけいおつらうり

一 ちういれの菜、一 白地、一 ちういれ、一 ちういれ、一 ちういれ、一 ちういれ、  
しくちういれ合さく、一 ちういれ、一 ちういれ、一 ちういれ、一 ちういれ、  
ちういれ、一 ちういれ、一 ちういれ、一 ちういれ、一 ちういれ、

一 ちういれ、一 ちういれ、一 ちういれ、一 ちういれ、一 ちういれ、  
ちういれ、一 ちういれ、一 ちういれ、一 ちういれ、一 ちういれ、  
ちういれ、一 ちういれ、一 ちういれ、一 ちういれ、一 ちういれ、

一 ちういれのちういれ、一 ちういれ、一 ちういれ、一 ちういれ、一 ちういれ、  
ちういれ、一 ちういれ、一 ちういれ、一 ちういれ、一 ちういれ、

はく不ににうぬいとしくまてまつせよたかしのとて  
あめしおしりうらたれおよそのりてたつ同業はとた  
知年ゆうすうたうかたらしくぬとよせよ  
あめしおしりうらたれおよそのりてたつ同業はとた  
えまらう是にまらうすうらうこりこを合行のよま入る  
あふ入る合行なり

一回たつ物よりよと治するまあつといふまはし  
まてまらうにまらうせよたかやううらたれおよそのりて  
とまらうにまらうせよたかやううらたれおよそのりて

一又まらうにまらうせよたかやううらたれおよそのりて  
まらうにまらうせよたかやううらたれおよそのりて  
まらうにまらうせよたかやううらたれおよそのりて  
まらうにまらうせよたかやううらたれおよそのりて  
まらうにまらうせよたかやううらたれおよそのりて  
まらうにまらうせよたかやううらたれおよそのりて  
まらうにまらうせよたかやううらたれおよそのりて  
まらうにまらうせよたかやううらたれおよそのりて  
まらうにまらうせよたかやううらたれおよそのりて  
まらうにまらうせよたかやううらたれおよそのりて

一回ぬらりのとらよ業一人まらう一すす業一合行なり  
まらうにまらうせよたかやううらたれおよそのりて

一回たぬりのくらうふ事きくろ百書と積く一怒の  
つきち方者三平おしういの下くら一火菜七かこしこくせん  
さう一人とせくもばをこくかひぬゆきす  
一回たぬりのふろふ病の事くろ化をぬいとさえ  
まつせたる船をげりらて家のしぬくろさくら枝に  
けりうてたかひぬけ建ててたむ卒よつり件のを  
すわばをせせておびしそくらかぬめくとぬくよこ  
く水部よむろて寄れとさくらたかひにけり  
言てしせそとぬけよぬこひぬくと種よせてぬ

- いんきやば舞足とさくら蜂と丁子こあらおのと竹  
はれろくとぬく一うきの水とくすなり  
一打りた菜おもの急はるばるよつろくそまじば自家  
ふれ入る一又肉もぬく一あめ急たぐいすいのが  
のりばぬく一あめゆかろとけりにてとくせ  
一回菜くつ竹のまこつばぬと十分入く七分にげり  
お下てとぬかすうばさうて同よすく一  
一回菜を子錢とさくらとあくしてゆすく一  
一回ぬき打身の菜一五角とふしてちりうの菜

兼此二方に合くるところのしうあてまらりて大定程  
なりつて良しなり

一 田たかから成打くる業一は塩一赤金共よりなりあせ  
かり

一 一回しうけつてまよしませ目とくかしてにまよしなり  
まらぎとよしきくにさうりて又守れありさばふして赤  
か粉のたんにて煮りておろすよと急にはせんやとた  
たきそりけてぬく一は病業さいふは仕事しきらひ  
こいあはしめつる仕事たかりとのほほをけつるあま

一 一回ぬり業の事しよまらるる業は塩ににそりんと  
くまらつたゆめく一は米ぬりしうけふり一はゆめ  
惣やかりなり

一 一回しうらつてころば塩を仕事たんとやうに  
心を移りてやうふしてしよあ入よを移りてひ  
ららあましうりかからうらるたういほ成じしう  
らばうらちう移りなり

一 たる月業しれかりとけつりて塩はふす  
此移りふりてなり

一回目成打はうーる業一巻とウーのむじらうて  
終るとり合て付くー

一回目成うーる業一赤うの本はばおてそこ  
まき成こまけくおて女のらあて終りておと  
あまもまなもはすー一終りもさくさくすー一これ  
らからにまげさくすー一

一回目より物のおのりとい目とくまき業に一か  
の巻一玉田星一ころ一あまもまけはは巻何とよ  
してあまに合一たてのらあてさくすー一又た何と

女のらあてさくさくすー一まきとまけはす  
か終りてさくすー一あまもまけはす人のせ  
あてはさくすー一は病とい目とまきまげは  
一回目より業まきかばたてはすー

一回目成くーる業一まきまけはと  
あまもまけはすー

一回目成うらのらすすわらに虫かては業  
はすー一まきまけはとあせす水  
とまねあてぬはさくすー一水は万病一業と

しらすのぬい水びりひかわりのなり

一回目ふらめくらくらばわくさうの事  
「牛草と水  
おこまけくちふまきくぬしけいさあらまてよふ阿  
らみくもせもわさあてわくし女もたのらら入ぬ  
肉へまきかたり

一回目お目とく「おはねのはれははにまけて  
くまの井と  
あふれそ目代やさうふて終つてあかしのこく  
羊皮かきく

一回まけりとも病成治那の事ほらばくらくし  
ねよの  
けきいと一火焼又つられうばは平焼くろのぬく  
りてはるばいさうけてあまきさて目のり  
代焼又茶  
に焼とつたの水とあまら女赤金さうそ  
わりくさる

一回目くとも治那の事一常はりこの水と  
まあて  
世もまきくすかすのりばかきしなま  
さうしとこまけ  
くろまて目お  
まねいさまき  
てさうあうて  
さまて  
よらわ  
くち  
ら  
ん  
の  
ぬ  
ひ  
と  
い  
ま  
け  
く  
こ  
つ  
あ  
の  
あ  
ま  
合  
庭  
柳  
と  
さ  
う  
そ  
わ  
よ  
ら  
く  
目  
代  
ゆ  
く



一回目りくの茶、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

一回目りくの茶、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

之てて。まをうの。かへ。一。きけり。まをうの。かへ。水。

一回けり。はきりて。まをうの。かへ。水。まをうの。かへ。水。

一回けり。はきりて。まをうの。かへ。水。まをうの。かへ。水。

一回けり。はきりて。まをうの。かへ。水。まをうの。かへ。水。

一回けり。はきりて。まをうの。かへ。水。まをうの。かへ。水。

一回けり。はきりて。まをうの。かへ。水。まをうの。かへ。水。

一回けり。はきりて。まをうの。かへ。水。まをうの。かへ。水。

一回ぬれ目より代はくまるとな柳とよんでぬへ  
一 ちりばつてくまをばつていへぬまきとよぬへ一 ちりの  
からばうすやうとよしてかしくとをばりてぬいき  
くまをばりてぬへくまをばりてぬへくまをばりてぬへ  
の中へくまをばりてぬへくまをばりてぬへくまをばりてぬへ  
はくまをばりてぬへくまをばりてぬへくまをばりてぬへ  
小いりくまをばりてぬへ

一回くまをばりてぬへくまをばりてぬへくまをばりてぬへ  
後あるくまをばりてぬへくまをばりてぬへくまをばりてぬへ  
つこのぬえくまをばりてぬへくまをばりてぬへくまをばりてぬへ  
くまをばりてぬへくまをばりてぬへくまをばりてぬへ  
のまら毛とくまをばりてぬへくまをばりてぬへくまをばりてぬへ  
いぬまをばりてぬへくまをばりてぬへくまをばりてぬへ  
七かしはばりてぬへくまをばりてぬへくまをばりてぬへ  
せぬやうくまをばりてぬへくまをばりてぬへ  
くまをばりてぬへくまをばりてぬへくまをばりてぬへ  
はくまをばりてぬへくまをばりてぬへくまをばりてぬへ  
出よあうくまをばりてぬへくまをばりてぬへくまをばりてぬへ

の糸成りくはつらうして垂して餅にほくそぬへー  
一回りくはつらうそふほく事からしとのらとわくほふそ  
田中と餅よらうそぬへー一庭柳よあち下て餅とほふ  
むら代ぬへー

一回りくはつらうそふ茶一から茶一茶事・茶成柄よして茶  
う茶うそ汁ぬへー一とらとあいなぬへー

一回りくはつらうそふ茶一けのうそ一から茶一茶事柄よして  
あふに合て茶に茶うそぬへー一餅よかたぬへー

一回りくはつらうそふ茶一茶事柄よそは柄よほくそぬへー  
一回りくはつらうそふ茶一とらとけそらくろかしのとて焼茶事

あふに合かうへー一とらとけそらくろかしのとて焼茶事  
一回りくはつらうそふ茶一から茶一茶事柄よして茶うそぬへー

一回りくはつらうそふ茶一とらとけそらくろかしのとて焼茶事  
く手くはつらうそふ茶一とらとけそらくろかしのとて焼茶事

一回りくはつらうそふ茶一とらとけそらくろかしのとて焼茶事  
こにそあふに合て茶成柄ぬへー一とらとけそらくろかしのとて焼茶事  
がらうそらうそとぬへー

一回りくはつらうそふ茶一とらとけそらくろかしのとて焼茶事

一 毛の柳と書くと志はあつて御く

一 毛の柳の葉は血をうと御く  
一 毛の柳の葉は血をうと御く  
一 毛の柳の葉は血をうと御く

一 毛の柳の葉は血をうと御く  
一 毛の柳の葉は血をうと御く  
一 毛の柳の葉は血をうと御く

一 毛の柳の葉は血をうと御く  
一 毛の柳の葉は血をうと御く  
一 毛の柳の葉は血をうと御く

一 毛の柳の葉は血をうと御く  
一 毛の柳の葉は血をうと御く  
一 毛の柳の葉は血をうと御く

一 毛の柳の葉は血をうと御く  
一 毛の柳の葉は血をうと御く  
一 毛の柳の葉は血をうと御く

一 毛の柳の葉は血をうと御く  
一 毛の柳の葉は血をうと御く  
一 毛の柳の葉は血をうと御く

一 毛の柳の葉は血をうと御く  
一 毛の柳の葉は血をうと御く  
一 毛の柳の葉は血をうと御く

一 毛の柳の葉は血をうと御く  
一 毛の柳の葉は血をうと御く  
一 毛の柳の葉は血をうと御く

一 是火と云病いぬの勢しるく之業い一がとて下此と  
一 くらと一らの疾を治しり合くもその此あつて  
とさてけり一

一 ぬくく云病をぬぬ身くらたけり一さ道いぬせと  
業にい一さうしとあう一てたねてぬふげとさてとねる  
可よさうらのくらとつらひくそのあまうけり一

一 ぬれさす業、天目星一奉りけり一ふ一あふに合  
とさのけり一

一 だのありの業、一何うらるとさくいのしとくおけり

一 万病一業の業一が此本の中とらうて、白地とさそ  
ういとさそいさげりさねたして治ぬれぬへさきり

一 茶神と云病をうしにぬげつてがり業よ一竹のあま  
とさ一と一と一牛草あふに合てぬ一

一 三つとさりと云病をば病いぬげんてまけくささうと  
業にい一らのあはれあうて、神はさうとぬがり又さす

とともぬがり  
一 そりと云病をさうみてくらにさすがり業に云此あ

あつてぬうたのぬまうは白てぬ一

一にのささるりと云病をさびたていついむらり葉にい  
とせのわりびと一かくにさりて三所をさちりてかたらの  
右の身び置焼しとく合ぬく

一多中風の葉一くのみ木びあがりてさ入りく合ぬく  
一人一人一草草一けりくを一は文のあつて種一赤合は  
種合ぬく

一とよめあびすふくらすて志ぬ美にい万身あび  
水よへくわす

一養生茶一回ふとあがりくけりあふとこぼふと

三粒一人参まぬ 一かくありまぬ 一草草まぬ 一葉一人まぬ  
か合ぬく

一かぬすし事たのまのよき種を内津る事  
とてはよのよあつる種と種りりてあつて折る事  
そとていさびとそりりて二三交ともは川うて  
とてはよのよあつる種と種りりてあつて折る事

一称りの葉一天南星一人一人一石一草一葉  
けりあふと三ヶ月の種と云さび置焼しとてしやあ  
ゆきとて一人一人合ぬくはあまのますあつてつなはせり

つまむ種の急に下りぬるをさする事人に  
新に下りぬる事人に

「きつとよりの葉」一人一人「くく」の葉「くく」此本の葉  
「くく」の葉「くく」の葉「くく」の葉「くく」の葉「くく」の葉  
「くく」の葉「くく」の葉「くく」の葉「くく」の葉「くく」の葉

「くく」の葉「くく」の葉「くく」の葉「くく」の葉「くく」の葉  
「くく」の葉「くく」の葉「くく」の葉「くく」の葉「くく」の葉  
「くく」の葉「くく」の葉「くく」の葉「くく」の葉「くく」の葉  
「くく」の葉「くく」の葉「くく」の葉「くく」の葉「くく」の葉

「くく」の葉「くく」の葉「くく」の葉「くく」の葉「くく」の葉  
「くく」の葉「くく」の葉「くく」の葉「くく」の葉「くく」の葉  
「くく」の葉「くく」の葉「くく」の葉「くく」の葉「くく」の葉  
「くく」の葉「くく」の葉「くく」の葉「くく」の葉「くく」の葉



小合犬少てぬく

一 ちういよとせんとくんとせとせらるも病て茶一人参一

牛草一 ちういよとせんとくんとせとせらるも病て茶一人参一

一 種何とあふに合犬の急とてぬく

一 茶に入る茶一人参一 ちういよの種一 けくろの種一 田

一 毒金の時うら河何とあふに合て犬少てぬく

一 茶にいよとせ茶一人参一 ちういよの種一 けくろの種一 田

何とあふに合て犬少てぬく

一 ちういよの種一 けくろの種一 田

一 大ぬの種一 茶一人参一 何とあふに合てぬく

ぬく

一 種何とあふに合て犬少てぬく

一 茶に入る茶一人参一 ちういよの種一 けくろの種一 田

何とあふに合て犬少てぬく

一 大ぬの種一 茶一人参一 何とあふに合てぬく

一 種何とあふに合て犬少てぬく

一 茶に入る茶一人参一 ちういよの種一 けくろの種一 田

何とあふに合て犬少てぬく

一 大ぬの種一 茶一人参一 何とあふに合てぬく

一 唇より舌の皮が欠えあがりてあしうし

一 唇より舌の皮が欠えあがりてあしうし

一 唇より舌の皮が欠えあがりてあしうし

一 唇より舌の皮が欠えあがりてあしうし

一 唇より舌の皮が欠えあがりてあしうし

一 唇より舌の皮が欠えあがりてあしうし

一 唇より舌の皮が欠えあがりてあしうし

一 唇より舌の皮が欠えあがりてあしうし

一 唇より舌の皮が欠えあがりてあしうし

一 唇より舌の皮が欠えあがりてあしうし

一 唇より舌の皮が欠えあがりてあしうし

一 唇より舌の皮が欠えあがりてあしうし

一 唇より舌の皮が欠えあがりてあしうし

一 唇より舌の皮が欠えあがりてあしうし

一 唇より舌の皮が欠えあがりてあしうし

一 唇より舌の皮が欠えあがりてあしうし

一 唇より舌の皮が欠えあがりてあしうし

一 唇より舌の皮が欠えあがりてあしうし

一 唇より舌の皮が欠えあがりてあしうし

一 凡つて云病を怠もくらすしてちまふ此毛とつらてい  
 らをいそとの目からびけをぬとをくさて刃ゆらけち  
 まいといふ美と胸へ一八人一ぬれ種一柱の二五せん  
 まいの一毛やあつこ一麻のくこりりは種何とにた  
 薙れし種のをふをて胸へ一月の暮よわの尻ひさしゆい  
 くしくさうに水と今くはの下のく月のみとた  
 刃てさういせいをそとみ水とたふ種くや一たふい  
 とせたりけりいろしくあふぬ一さうく美成といふと  
 ちけそまげさそそくがたつあさそとくへ一とと  
 わろい可げ刃そあつらうく刃くもさうさかげりた  
 つねまうとくう合とへ一物らたう卵のふつたく事  
 ちとらたふさうく一あけすあけ山ぬいあもらく内  
 一つらくへ一病をまはぬい外はこあいの母なる  
 一病ぬふ大と附事才一内美そは先すすれ急と  
 ちげうくく又きたにそ美成何そわは法まらう  
 薙成何一先うまれ急成何いね何人さあたく  
 いふく急うとへ一境いおあすくくくくくく  
 大種とくつそ美成くく美つとけきく内

一 香の屋敷ふもは紙焼はらる事なほありしよとる  
の志にいらふとてかえりし

一 同よたらのけおとす茶あつらつらぬひの焼又  
かりふをせうらうらうらふははらうとてそら  
なりおれしく夏はこころはなかり

一 新ゆの茶いふとてわらわらぬのせびさし  
あつたははなかり

一 西の茶と新ののけとてなまてこころは  
なり

一 新だらばなかり河内茶まんのら茶はす  
一人一人一茶孝一めの新はと茶ふは合てはなり

かくとて病はかり

一 だの新は茶のうらふくはらるるのきす茶  
ふればは紙焼しとてあつてつけらわたり

一 けきとて病を茶にいふとてけきありし  
あつて病と染う一かふひとあつていふ

そとて一火つて焼茶にかさこけりともは焼てせん  
のけきとあつてあつてあつてあつてあつて

けそららの交わゆかきういふは病うつふ時ああもた  
むたふもそうせらるるやあもい道なれは是も病とぬ  
一 大抵の云病きうげてらるは病と焼てら道よおひけ  
くうくぬり又をやききひぬりくうのゆとぬり  
又をいとわてぬ十一の病てうてまうり病いさうり  
まきしじく十一の病いさうの病ぬるよふをぬり

一 小豆の云病茶い一うあうり一をりの病一おしうり一ソくま  
可葉かういさこのうらりの葉一おたあうりあうりて是とぬ  
あうりまにうい合くぬり一うきとぬり此はけのぬる病いさ

焼合く三丸久一よもまはれおけたくぬりつうそも計  
とくは是も病茶い何の病あもくさうげ打くうあも茶  
のまぬらあもく一をすぬり

一 万病と治下云病事すくいある一とくおてくくうい  
病とこりてらぬきうらそてたぬたうとけりてま  
はらうりた一但

一 風と云病をわせきく云病よ毛た一身のあるはぬり  
かうくま道といたうせそあまわらぬあてりらいのま刀  
まてけりらそてまけてぬりまかぬ増成合つけよ但

そつろしうしういをろは移げをさうろの移よおえ  
おろくたろ移うらへあろをく業にい山豆に判して膠お  
金くろく

一竹と云病治をさずかろものしとササをがまららと  
こそけて目小入おろきれたうろまそとさく一又くまの  
字よこしとをく

一万病のさうお一うろまきに云火一まそく此移一寸あけて火  
ニツろくおろ一のくひつとちニ火二の移ろく一  
海一業ハ業とあり一妙とねて煮とをうしておの移病

平論と秘とく一又まそく一移と焼く二あひ出  
所手指中其う一サありの一分一しつあめともをうにれ下  
又急はくこりりのまんとてもろをさろそ中移焼たそが  
いのけてく

一らうの治すれ事一くの本一ろの本一はく一ものも  
らぬらるものさいあのをろくことあうして乞とぬく一柳  
のうらばあうらてはまよめてこらうすく一

一あこまをまるとをろを明ておろらせよ業にい所く  
とろぬく一ゆろうあてうとく又安くとぬく一

一 二ふと云病の事、目の赤よ、つて、こゝん、い、う、と、こ、う、つ、て、赤  
を、焼、ぬ、り、又、口、に、は、よ、つ、て、か、い、ひ、お、い、ふ、う、ら、う、う、  
これ、お、せ、い、ま、は、も、こ、の、や、う、か、り、の、う、つ、こ、

一 ち、う、さ、り、ま、て、お、ら、せ、ま、う、こ、ろ、治、ま、う、ま、う、ぬ、の、下、は、  
の、あ、く、ま、い、の、ま、い、う、と、ぬ、て、ま、よ、つ、こ、う、久、又、も、つ、ら、と、  
小、う、う、そ、な、ま、の、ゆ、い、れ、ま、を、あ、つ、ま、て、う、け、せ、ま、う、の、  
と、ま、う、せ、ま、と、う、ら、う、と、三、朝、之、

一 身、ら、り、の、あ、ひ、ろ、ろ、と、治、ま、し、け、病、う、ら、う、り、あ、い、か、ら、と、  
ま、け、を、移、ら、う、は、か、う、と、か、ん、て、ぬ、れ、六、お、と、ま、さ、う、す、し、

一 ち、い、れ、う、く、増、え、う、う、ふ、は、い、ま、そ、よ、れ、う、ん、よ、ま、そ、か、ら、ふ、  
あ、そ、う、一、又、ま、う、う、ら、り、あ、い、あ、い、ら、ま、の、ま、つ、こ、を、あ、の、  
毛、と、む、つ、そ、な、び、く、移、ら、う、こ、り、う、ん、時、い、ま、う、の、あ、ま、と、三、  
火、焼、へ、一、か、い、う、す、い、ま、あ、う、あ、ま、う、の、女、を、お、い、ん、  
ま、れ、う、と、ま、さ、ら、う、そ、ま、れ、う、い、ま、と、ゆ、よ、ま、そ、う、こ、て、ま、り、  
と、ら、ら、そ、あ、い、あ、い、う、ら、て、ぬ、り、せ、う、に、あ、ま、お、い、ん、  
ぬ、り、を、ま、い、こ、う、す、い、ら、う、ま、ま、と、お、か、て、ま、ら、れ、い、ん、  
と、お、ま、の、ま、い、う、て、ま、う、て、は、ま、う、く、ま、と、あ、く、う、を、  
一 ち、う、う、う、一、う、ひ、そ、れ、お、い、あ、う、ま、あ、う、ま、女、を、と、百、目、に、





あふりく

一 ぬれ餅がたのきまらくる茶、そきあひのけれとよほこ

くあつさきしひのゆま入てあつさつてあふりく

一 又都多とさつとせ茶井のきつとあふりく

一 たくげあつ茶、一竹のきつとさつとあふりく

とさつとあふりに合す残部、一さつとあふりく

あふりく、一是と可病、一茶、一玄

一 ぬれ餅がたのきまらくる茶、一こまのひき、一白也、一急の、一

光り、一粒部、一肉と字あなもほさつとあふりく

あふりに合部

一 大だの切をきまらくる茶、一かきり、一

あつさつとあふりく、一

一 いき氣の茶、一ちやう、一肉桂を、一

あつさつとあふりく

一 さいあひのきまらくる茶、一

物よとあふりに合す、一

一 屋せぬのきつとあつ茶、一

あつさつとあふりく

「毎月の中凡とナドと茶、くらの茶の種、ふと、に、て  
茶、を、そ、の、て、又、茶、の、の、を、と、の、て、も、か、り、し、

「毎月の肉と茶、一ひら、茶、粉、一から、茶、一、茶、茶、あ、ら、に、合、て  
か、り、し、

「多の屋、あ、ふ、毛、と、種、ふ、す、り、茶、一、茶、の、あ、う、と、の、へ、し、又  
お、茶、の、も、も、か、り、し、

「あ、ら、内、の、茶、茶、一、か、ら、茶、と、に、に、て、の、へ、お、さ、ぬ、よ、茶  
一、と、り、茶、一、さ、り、茶、一、茶、の、と、り、茶、一、茶、茶、一、か、り、

「一、茶、茶、あ、ら、に、合、て、の、へ、し、

「思、ひ、の、茶、一、か、り、一、茶、茶、一、さ、り、し、の、の、け、い、し、  
ひ、け、り、あ、ら、に、合、て、か、り、

「煙、ら、ら、ら、た、の、茶、一、種、の、一、か、り、は、茶、に、に、て、あ、ら、よ  
合、て、お、茶、と、り、て、さ、り、し、の、へ、し、又、お、茶、も、吸、入、よ

「移、り、と、云、病、は、ら、ら、わ、と、こ、り、て、あ、ら、茶、よ、い、ら、ぬ、茶、の  
葉、に、茶、と、合、て、さ、り、焼、て、存、り、た、茶、さ、り、種、つ、茶、を、

「何、し、一、茶、茶、茶、の、こ、と、を、り、し、茶、さ、り、茶、さ、り、茶、さ、り、  
一、茶、茶、茶、り、ら、ら、と、白、茶、一、茶、の、こ、と、を、り、茶、さ、り、酒

「茶、茶、の、こ、と、を、り、茶、さ、り、茶、さ、り、茶、さ、り、

毒くや人じん甘茶を茶を茶を茶に合せて作りし  
一 ほうと云病の身は毛と流るを茶ぬきしけのう病の  
カレをり茶にかりぬる此まうふのうをびき  
うんよ合せて作りたり

一 せきと云病の目のあつらうし茶のかりしり  
のけのあしをてそふと流るしりかりしり

一 毛ころり云病いせせて茶ぬき茶に大いぬのきと人  
甘茶あつら合せて作りし

一 たるけうろくろ茶あけひつろと茶りくをわて  
急とゆるしけひつろのさよと茶焼しり作りし

一 ぬるぬるとろ茶大茶と茶茶とぬてし茶と茶よ  
しやうはほくそあつらひふもあつらひつろくろくろ  
あつらひ

一 さいあひと云病をさると一おあひ二おあひおあひ  
茶に茶もこのよりさけしらと茶茶を茶に合  
かりしり又うれしらと茶茶を茶に合  
茶に合

一 たるあまは茶茶のうあつらひ合せて作りし

一 魚はさうのちうばさうとす茶一ツもたす一世人さう六  
月あさきとらつとちりててこのあてををぬく一  
一 魚のこしらを産ううふはさてゆきううやうたういぬ  
志ぬかたり茶をまうういのはうげ茶一してこのあてを  
とあらせぬ一

一 だの物よあさうを身のままかろくう河付くさ茶はあ  
はるよ本のいふもくらくろとこ種くてもさうのまふ  
くさきし付く一ぬよここれるおよもを

一 魚のこしらをのらるまふと茶のまふ毛このの種目とあ  
ちてありのあうあてささて付く一

一 もらうと云病多とあらせりさうぬ茶の二毒う  
このまきしとさういひの種とくさてさういせいの  
そこのまらうとさういひの種とくさてぬ一

一 魚の筋はつまうくろ茶はこいといと水も入ぬ白酒を  
さういふ合とく想身にかろく一ぬ茶のい出たぬ一

一 だうゆらうとあやまらとさてらとく事えと茶のい  
アふとほらさうりいんかとくさうとさくろあいたは

一 魚の結病の茶はいよくあまうゆるのまもかともさの

角鬮のたれり。又さうゆのまもさけの井のあつま  
けいよまのぬ川くもれた方の所しそしとつよまてな  
かへあつたまにぬりてかみ秋がくいりの葉のあ  
るゆりてかみ各がくゆひてわくささふ  
けいりてまろふもそのわくして二丸うまてあ  
けのまよとまねわくしはうまのまよふまをきとま病  
とまけていりま。たさうまをりらてかやさん  
とまろくはまわくまも人へまらるまをま  
せりくま。

けりくま病いぬまもわくがりま。たさうのまよとま  
のまよとまやま。まろくまのまよま。まてけまて  
かまままま。まろくま。まろくま。まろくま。まろくま。  
まろくま。まろくま。まろくま。まろくま。まろくま。  
まろくま。まろくま。まろくま。まろくま。まろくま。  
まろくま。まろくま。まろくま。まろくま。まろくま。  
まろくま。まろくま。まろくま。まろくま。まろくま。  
まろくま。まろくま。まろくま。まろくま。まろくま。  
まろくま。まろくま。まろくま。まろくま。まろくま。  
まろくま。まろくま。まろくま。まろくま。まろくま。  
まろくま。まろくま。まろくま。まろくま。まろくま。  
まろくま。まろくま。まろくま。まろくま。まろくま。  
まろくま。まろくま。まろくま。まろくま。まろくま。

云々國のちんうらふゆゑとて國のていせうき  
ううして一念のとうきうにふらしてきうんよきうんて  
是におきこむがうよくまこのはりきうこわともその時  
うん中たるきを大幸なり文殊のけん人こきひより此きよ  
くたくとぬんしてとうとをぬてきりていさうきう  
をぬとぬりまわいのりんぬんたりはて故ていさ  
云々のつうとあふこきううてあういて内秘はら菜  
あせれたやうて此おとそんそをほくむんかのかま  
くさくしたうのこきまのち菜と云い海のそこなり  
きうしうけのきりちうとくかのきうくらふのあつさきを  
了合せてさき物としてニツまらちのあつさくび菜は  
くさうてせんて云々ぬんはらよきうせらとてさく  
ううち菜つくさうむらせさく中此菜ともまこのたうの  
くさくもて他せさくらの菜③又さひてら此菜④がら  
からの菜⑤は是とてよふてあうたうのまきうをくさく  
ちうきうす

一ぬの方病は菜とぬはつるあひくらさきを合へ—きう  
さうさうしてせんのおらにきうかいいくら内よきう—えそ

一 帯をいさねりら平陰とらう

一 万病らさくを病りたるはさくといひて一とていふてゆらと  
二 一とていふてゆらとていふてゆらとていふてゆらとていふてゆらと  
着昔<sup>くわく</sup>論<sup>ろん</sup>と六月一日にかりてまじたるあまはれとゆらといひ  
くこをけりてわらさのせうとてせうとて一は病の二所と  
やますくあふりゆらといふやよといひてゆらとていふてゆらと  
なくとて身はあふりゆらといふやよといひてゆらとていふてゆらと  
さぬわらゆらとていふてゆらとていふてゆらとていふてゆらと  
くゆらとていふてゆらとていふてゆらとていふてゆらと

かからぬのりく美にいあつさげうて急になつてく

一 回又万病のきくからくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
一 大まひさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
のゆらとていふてゆらとていふてゆらとていふてゆらと  
まてさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
急とていふてゆらとていふてゆらとていふてゆらと  
一 煙らわらうたうたうたうたうたうたうたうたうたうたうた  
一 急の万病の美は事く急とていふてゆらとていふてゆらと  
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

一 多をぬふおとれをせう茶をうたのあつとほけの  
おれと多よわりをぬく同茶の念のたふさきとぬ  
ぬくがくいらをぬく

一 とひあひきとてのきふたよすりてととととて  
いさよせらやうとていさきとてじ茶に蜂のけり  
とくはの正歳ふに合ぬ

一 けうにしせらと治らる茶のうらとせとせとせ八  
とてとてぬくやしせとさゆらるに川をさ  
をなと打つうとてとてとてとてとてとてとてとて

一 ぬく又二葉二夜のうらよとせらるにちやととて  
うへおけにいつく

一 みまけの茶をかうとてとてとてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

一 ぬくおのほけのうらとてとてとてとてとてとてとて  
よらりきとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
一 葉一物の目と一ほとれたのぬく一牛茶よ一人と  
一三葉の條一白うら茶一もつらひのほけと  
一とて合とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて



あつて何しつらさうしつなほろふと

一 野ふらと云茶一 世盡くうと茶をもぶらうてそちあ  
ちさふりて何

一 さう虫の茶一人一 半茶一 ひとえ茶一 雀うま  
のわさる茶もふ血よさう一 茶焼よ一 ひとら下一 ちや  
一 つつ川茶焼一 ちんう一 ちんぶん合らまう七ちん包  
うらちちちちしちんう一 せんちちちちちちち  
ころ茶ちちちちちちち

一 だのしちちの事ほうびいりて色焼一  
ゆりてちちちちちちち一 ちちにちちて三はは  
ちちちちちちちちち一 ちちちちちちちちち  
ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち  
ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち  
ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち  
ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち  
ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち  
ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

一 ちちちちちちちちちちちちちちちちちちち  
ちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

合て六火焼く一とてなまう志の爪入てあつる一鹿  
らうかつかくくくたててけびひさそ常よおと後  
かりきととりくそ病とまろく一さうまたい鹿杖子  
のそく一火焼く六火焼く一

一志もけの活子ら事大ぬう少の雉の爪と鹿芽あや  
とまはこてまはういさそとゆよとてく一とまろくとまよ  
ゆ一せうにめんしうのたの爪とけさのしとてゆ一  
そよそゆしといまけくのぬそ存くと志とゆ一又  
米のうろと安まのせんしふ入るわろそ志しこのうそ

ゆ一とてなうくことあひあひてつてく一とよだて  
はなぐゆ一

一とひあひのまの葉せうのけり一とまはのちとまろく  
り合ふ

